

※新設学部学科は仮称・設置構想中(設置計画は予定であり、内容は変更となる場合があります)

デジタル社会に必要とされる高度な科学的知識を持ち、伝えることのできる人材を育成

多くの情報があふれるデジタル社会では、その真偽を見極め、社会的課題を解決することが求められます。この課題に対し、正確で高度な科学的知識を持ち、解決の糸口を見つける手助けとなるのが科学コミュニケーションです。東京理科大学は建学の精神「理学の普及を以て国運発展の基礎とする」のもと、

創立以来140年にわたって深い科学研究を展開してきました。世界が変革期にある中、高度な科学研究の知識や正確な情報に基づいて、科学を普及させていく人材育成を目指し、他大学に類を見ない「科学コミュニケーション学科」を設置します。

Content 学びの内容・特色POINT 01 2つの専門科目群から科学を俯瞰する能力を涵養
高度科学コミュニケーション人材の育成

科学コミュニケーション学科の授業科目は、「コース専門科目群」と「科学コミュニケーション科目群」の2つの専門科目群から構成されます。「コース専門科目群」として、「情報・データサイエンス」、「数理」、「物理学」、「化学」の4つのコースから、自身の興味に合わせて1つのコース専門科目群をしっかりと学習することで、高度な「科学」に軸足を置くようにします。「科学コミュニケーション科目群」では、数学、物理、化学など幅広い基礎科目や実験科目を全員が学び、さらに、STEM/STEAM科目などを通して、科学を俯瞰する能力の素地を1年次に身につけます。また、情報科目、データサイエンス科目、サイエンスコミュニケーション科目を通して科学を「伝える」能力を育成し、高度科学コミュニケーション人材を養成します。

POINT 02 幅広い科学的視野を涵養する授業科目
「科学」を俯瞰し「伝える」ことを主体的に学ぶ

1年次からはじまる科学コミュニケーション科目群には、「サイエンスコミュニケーション入門」や「サイエンスコミュニケーション実践」を配置し、理論と実践の両面から科学コミュニケーションに関する能力を涵養します。また「STEM/STEAM実験」では、実験を通じて、Science(科学/理科)、Technology(技術)、Engineering(工学)、Art/Arts(教養・芸術)、Mathematics(数学)を横断的に学びます。3年次には、「サイエンスライティング」「情報表現」など、科学をどのように表現するかを、演習を通じて学びます。さらに、ELSI(Ethical, Legal, and Social Issues: 倫理的・法的・社会的課題)などの科目も配置し、デジタル社会における科学コミュニケーション能力の涵養を目指します。

POINT 03 研究科目で広がる科学コミュニケーション
幅広い研究分野から自身の興味に合わせた分野を選択

本学科では、3年次科目として「科学コミュニケーション研究」科目を配置し、卒業研究の前提科目として興味のある研究分野に必要な知識や技能を育成します。4年次の卒業研究では、さらに進んだ研究に着手します。

■ 研究キーワード例

「科学コミュニケーション」「情報科学」「数理科学」「データサイエンス」「物理学」「化学」「生命科学」「STEM/STEAM教育」「教育工学」「学習科学」「認知科学」「教育心理学」「Learning Analytics」「理科教育」「数学教育」

Career 資格・進路

卒業後の進路

理学研究科科学教育専攻への進学／他専攻への進学／
中学校高等学校教員／官公庁／教育関連企業／
科学技術広報／X-Tech企業／通信／マスコミ・メディア／
ベンチャー企業／博物館・科学館 などを想定

取得可能な資格*

数学系コース	中学校教諭一種免許状[数学] 高等学校教諭一種免許状[数学・情報]
理科系コース	中学校教諭一種免許状[理科] 高等学校教諭一種免許状[理科・情報]

※申請予定。ただし、文部科学省における審査の結果、予定している教職課程の開設時期等が変更となる可能性があります。

2026年4月、新学部・新学科開設。

INFORMATICS & SCIENCE

- 理科大の新たな挑戦 -

For Co CREATION.

CONCEPT

情報科学技術のイノベーション人材と、科学技術を広く「伝える」人材を育成する。

現在の情報化社会において、情報科学技術は社会の変革を牽引し、様々な分野で重要な基盤技術となっています。人工知能をはじめとした情報科学技術は進歩が目覚ましく、関連する教育・研究の基盤整備が急務です。本学ではこれまでも、多様な分野それぞれにおいて必要な情報科学技術の活用を推進するとともに、全学的にも情報科学技術の教育基盤を整備してまいりました。今回、これらの整備を継続的に強化するとともに、新たに組織再編を伴う改革として学部・学科の新設を計画しています。今般新設する「創域情報学部」では、最先端の情報科学技術分野

の教育・研究を強化することにより、当該分野自体の高度化やイノベーションを創出するとともに、共創を通じ、情報科学技術を応用する各分野の発展を牽引することを目指します。同じく新設する理学部第一部「科学コミュニケーション学科」では、細分化され複雑化する科学技術が理解を得て活用される社会を実現するため、情報技術を活用し、科学技術を広く一般に「伝える」人材の輩出を目指します。今般の学部学科新設により、先端的な情報科学技術を強化するとともに、すそ野を広げることを見据え、全学的な情報系人材の育成を多面的かつ強力に推進します。

※新設学部学科は仮称・設置構想中(設置計画は予定であり、内容は変更となる場合があります)



創域情報学部 / 情報理工学科

[入学定員] 360名
[授与する学位] 学士(情報学)

※新設学部学科は仮称・設置構想中(設置計画は予定であり、内容は変更となる場合があります)



自由な共創の場から新しい発想を創出する

情報系学部を設置

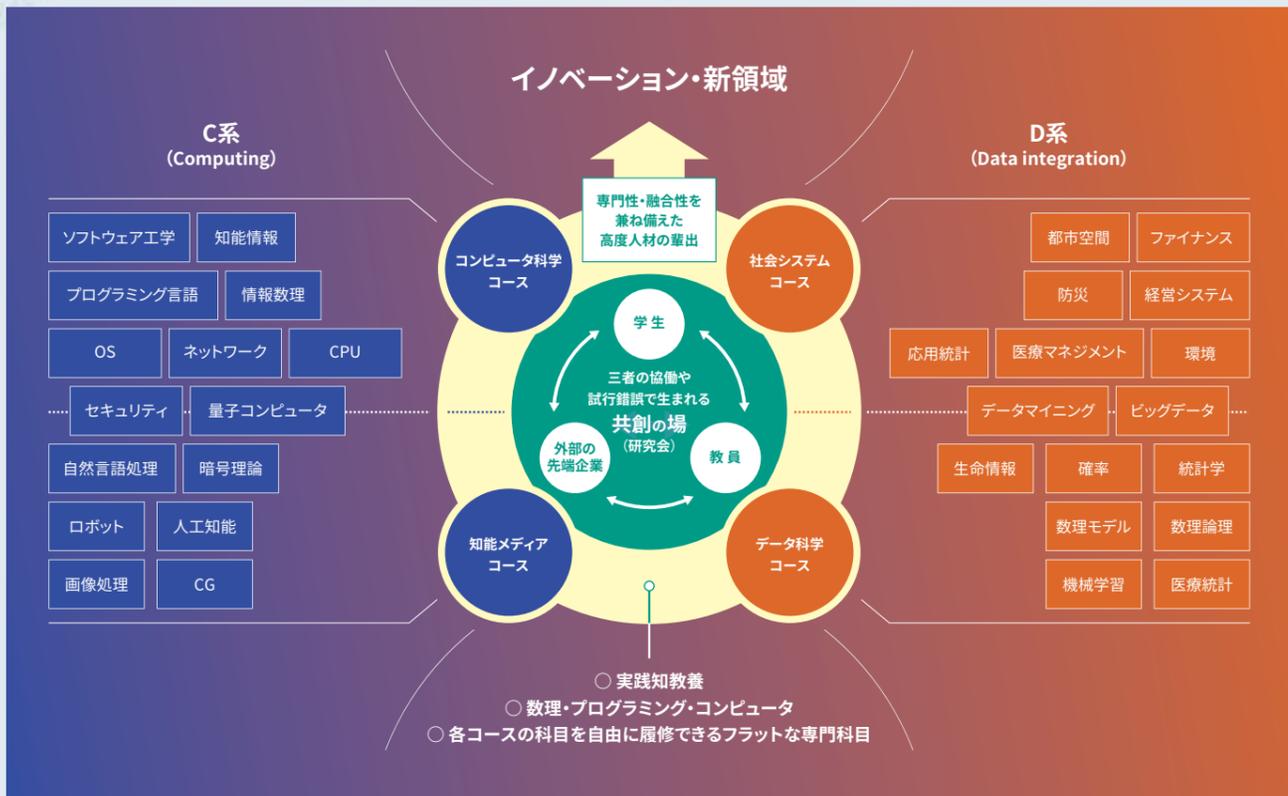
今後一層求められる情報技術のイノベーション実現に向け、東京理科大学は情報系分野を再統合し、自由な共創の場から新しい発想を創出する「創域情報学部」を設置します。進歩の速い情報系分野の発展を加速させるとともに、情報系以外の最先端分野とも広く共創し、真のイノベーションと革新的技術を世界へ発出していきます。これまで野田リサーチキャンパス(Noda Research Campus, NRC)では、理学と工学を網羅する創域理工学部を中心に「創域」の理念のもと、融合教育・連携研究を推進してきました。創域情報学部は新たに「情報学」の立場からNRCにおける創域を牽引します。

Content 学びの内容・特色

POINT 01 最先端を学ぶ、2系4コース構成 情報技術に重要な2つの側面を補完し合う融合的な学び

情報技術の重要な2つの側面である「コンピューティング」と「データの分析・運用」の両方を「C(Computing)系」と「D(Data integration)系」としてカバー。両者が補完し合うことによって真のイノベーションを可能にします。各系の学生は2年次で基盤や理論を扱うコースと主に応用を扱うコースに分かれて、それぞれの専門人材を目指します。C系はCPU設計、プログラミング言語、オペレーティングシステム、ネットワーク、

ソフトウェア工学、量子コンピューティングなどを扱う「コンピュータ科学コース」と、人工知能、大規模自然言語モデル、ロボット、セキュリティ、量子アルゴリズムなどを扱う「知能メディアコース」を選択できます。D系はデータマイニング、統計分析、医療統計、生命情報などを扱う「データ科学コース」と、経営システム、医療マネジメント、ファイナンス、環境、防災などを扱う「社会システムコース」を選択できます。



POINT 02 学びたいことを主体的に 選択できるカリキュラム

目指す方向に応じた多様な学びを提供
入学後の興味の変化にも柔軟に対応

1年次、2年次は学部共通の必修科目を学ぶとともに、2年次以降は4つのコースに分かれ、各コースのモデルカリキュラムに沿って学修を進めながら、他コースの専門科目も履修可能。それぞれの目指す方向に応じた多様な学びを提供します。また、主要科目で良い成績を修めると他コースの研究室への配属も可能にしており、入学後の興味の変化に合わせて柔軟に研究計画を立てることができます。1年次から参加できる「研究会」では、学生が主体となり、ソフトウェアやサービスの実現に向けた取り組みのほか、起業を目指した取り組みなど様々なプロジェクトを実施予定です。

外部のエキスパートによる実践的な授業

優れた研究業績を持つ教員に加え、企業や外部研究機関で活躍する先端技術者も教員として参画します。しっかりとした理論を学修するとともに、企業が持つ問題意識と実践的な取り組みを学ぶことで、社会に還元する技術のあり方を学びます。

POINT 03 6年一貫教育と修了までの 在学期間の短縮

早期の研究室配属を可能とし、
最短5年で修士の学位取得が目指せる

修士課程までの一貫した教育を希望する学生は早期の研究室配属と研究活動の開始が可能。また、優れた研究業績を上げ一定の要件が満たされた場合は、修士課程までトータル5年間で修了することができます。さらに博士課程に進んだ場合、博士の早期修了と合わせて7年間の博士の学位取得を目指すことも可能です。

	学部+修士課程		博士後期課程	
	4	6	9	
通常修了				
6年一貫教育(通常)	3			
6年一貫教育(短縮)				
6年一貫教育(短縮)+ 博士後期課程早期修了		5	8	
				7

修士課程 修了 博士後期 課程修了

Career 資格・進路

卒業後の進路

大学院への進学 / 情報通信産業 / シンクタンク / ゲーム・メディア企業 / X-Tech企業 / 通信・メディア等ベンチャー企業 / 中学校高等学校教員などを想定

取得可能な資格*

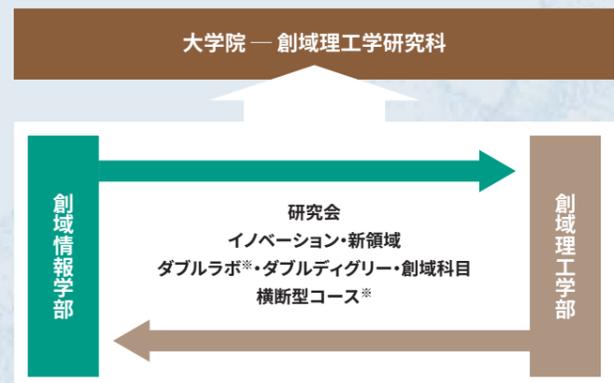
中学校教諭一種免許状[数学]
高等学校教諭一種免許状[数学・情報]

※申請予定。ただし、文部科学省における審査の結果、予定している教職課程の開設時期等が変更となる可能性があります。

POINT 04 創域理工学部との連携と 創域理工学研究科への合流

2学部の連携と大学院への合流によって
情報分野の枠を越えた広い技術革新を目指す

学部の段階では創域理工学部・研究科の「ダブルラボ」や「ダブルディグリー」、創域科目への参加、研究会での創域理工学部との協働などをとおして創域についての共通の素養を養います。大学院に入ってから創域理工学研究科が進める「横断型コース」などの共創的な取り組みを共有しながら、既存の枠組みにとらわれない実践的な融合教育・連携研究を推進していきます。



※ダブルラボ：所属研究室のほか、異なる学部・学科の研究室にも所属し、連携研究に取り組む横断型コース：テーマに基づき、他専攻の研究室とともに研究に取り組む(修士対象)